牧港漁港芝生広場土壌のメコプロップ（MCP）溶出量に対するコメント

- 1) メコプロップは、除草剤 MCP の有効成分で、選択性除草剤として芝生におけるクローバーやチドメクサなどの広葉雑草の防除に使用される。生体内において植物ホルモンのオーキシンのバランスをかく乱することで光合成能力を低下させ、植物を衰退させ枯らす。
- 2) MCP は茎葉処理剤であるが、散布した薬剤が土壌に落下した場合、土壌下方に 2～4cm ほどに移動して土壌処理層を形成し、生育中の植物の根から吸収される。土壌中の残効は 20～30 日ほどである。なお、土壌処理層を形成するため、降雨による流出はほとんどないと推測される。
- 3) 採取された牧港漁港芝生広場の土壌の溶出量分析では、0.00013mg/L の報告値が上がっている。暫定一日摂取許容量（ADI）は 0.018mg/kg 体重/日であるので、体重 50kg の人だと 0.9mg と算出されることから、採取土壌の溶出量は人体に全く影響が出ない極めて微量である。
- 4) 芝生広場へ散布した MCP の濃度は 0.15%とされるので、1 m²あたり 200mL の水量で散布したとすれば、MCP は 0.3mL/m² (=0.366mg/m²) と推定される。通常 0.5～1mL/m²散布されることからすると 3 分の 1 程度の低濃度であったと思われる。MCP 中のメコプロップ濃度は 50%であるので、メコプロップ散布量は m²あたり 0.183mg となる。これらの多くは植物に吸収され、一部は土壌に落下したと考えられる。
- 5) MCP の 50%生分解期間は、条件によってかなり異なるが、数日程度と推定される。
- 6) 以上より、MCP は、芝生における広場雑草の除草剤として散布されるものであり、用法および用量等を守って施用すれば安全性に全く問題はない。

琉球大学農学部 亜熱帯フィールド科学教育研究センター
准教授 赤嶺 光